

〔翻 訳〕

『スペクテイター』 (63)

—第600号から第609号—

門 田 俊 夫

第600号 1714年9月29日(水曜日)

【アディソン】

住人は自分たちの太陽と自分たちの星を知っている。

(ウエルギリウス)¹⁾

私は常に宗教、年齢、国によって人々の考えにどれだけの違いがあるかを調べることに特別の喜びを覚え、来世で約束されている魂の不滅や幸福の状態がどうなっているか考えます。人間が置かれている偏見や誤解がありますが、理性や始祖からの伝承にはすべての人に真実や神の啓示よる教理に類似した点があることが分かります。この点について、最近、アフリカ西部の住人のことに精通している学識者と話をしたことがあります²⁾。その地域のことに精通している彼によると、この地に住む人々はあらゆることが直ちに実現することを望んでおり、天国および将来の幸福な状態についても同じように考えているとのこと。彼らが言うには、魂は多様性を求めており、同じ対象には喜ぶことはないとのこと。それゆえ、人の魂に植え付けられているこの幸福の嗜好に従って、神様が時々満足感を起こさせてくれるのだ、と彼らは言います。もし小川とか滝のある木立や木陰にいたいと思うと、直ちに希望通りの場所にいることになります。もし音楽や快い調べが欲しいと思うと、願い通りに協和音が発生し、辺り一帯が旋律で満たされます。要するに、あらゆる願望に満足感がついて回ることになり、どんな意向でも意のままになるのです。神様が願望に一致した形で創造しているのか、それとも神様が自分たちに喜びを与える場所にいるのだと信じさせるような変化をもたらしているだけだといったことは重要ではありません。幸福が外的な物ないし自分たちの空想に与えられる印象から生じたとしても、幸福が変わりはありません。以上が学識のある友人から聞いた話です。こういった考え方は一般に妄想的で非現実的であるにもかかわらず、魂への神の作用を考えていることには何か崇高な点があります。こういった重要な点に関する異教の世界のその他の考え方も同様です。言ってみれば、真実にその基盤があり、来世における善良な人々の魂は申し分の

1) ウェルギリウス『アイネーイス』6.641

2) これはアディソンの父ランスロット・アディソンの『西バーバリー、フェスおよびモロッコ王国の大変革の話』(1671)だとされている。

ない幸福な状態にあると考えられます。この状態だと、結果をもたらさない希望とか結実しない願望といったものはなく、すべてが願い通りになります。ところで、この考え方で私がとても気に入っており、人間性についての熟慮から生じる点は、善良な人々が来世で所有すると考えられている喜びが変化に富んでいることです。理性と啓示双方の指示から見てもこれは十分に可能だと思います。悟性や意志と同様に、魂は外的および内的な感覚をすべて備えた多くの能力から成り立っています。もっと哲学的に言えば、魂は数多くの活動で力を発揮することが可能なのです。つまり、魂は理解することが出来、想像し、見、愛し、話をし、その他あらゆる行為に精力を注ぎます。だが、それ以上に考慮すべきことは、好ましい対象に満足するとき、魂がそこから実に強烈な喜びや満足感を受け入れることが出来ることです。記憶や視覚や聴覚あるいはその他の感覚の満足感によって、魂は大きな喜びを感じる事が出来るのです。明確な判断力と同様に、どの能力もそれぞれの好みに見合った対象を持っています。神は数限りない方法で魂を幸せにすることが可能なので、私は祝福された者の幸せがどこにあるのか定める積りはなく、とティロットソン博士がどこかで語っています³⁾。魂が現世で授けられている喜びに至るいくつかの道のほかに、多くの顕著な神学者の意見によると、栄光を与えられた体の新感覚だけでなく、完全無欠な善良な人々の魂には新能力があり得るのです⁴⁾。私たちにとって極めて重要なこれらの能力に提供される新しい対象があるのは確かなことだと思います。

同様に、すべての特定の能力は実に多様な対象に向けることが出来ることに留意すべきです。たとえば、悟性は、道徳、自然、数学、およびその他の真理を熟慮することに幸せを覚えることが出来ます。魂が何百万年も空間を通り抜け、喜びを持って永遠の日々について考えるとき、記憶も同様に、無限の対象に思いを馳せることが出来ます。ほかの能力も同じように考えることが出来ます。

魂の幸福がその本来の姿に見合ったものになること、そして魂に授けられている能力はすべて有用で活用されることは間違いありません。幸福はすべての人の幸福であるべきで、いずれかの能力がその実現のために機能しているときは、魂の幸福を容易に想像することが出来ます。幸福はそれに向かって活用される能力に比例してより一層高尚なものになる可能性があります。しかし、魂全体が特定の力を発揮するときは、魂全体はその特定の行為から生じる喜びに幸せを覚えます。これまでにそれとなく言ったことがあり、現代の著名な哲学者が指摘しているように、私たちは魂をいくつかの力と能力に分割しますが、魂全体が記憶し、理解し、意志を持ち、想像するのですから、魂それ自体にはそういった分割はありません⁵⁾。魂それ自体に分割がないために、記憶や悟性や意志や想像力やその他類似の能力への私たちの注意の払い方によって、私たちは抽象的な思索が可能になる訳です。

そこで、魂は様々な能力を備えていること、言い換えれば、様々な振舞い方があること、

3) ティロットソン博士は1630年から1694年までカンタベリー大主教であった。

4) アディソンは、ジョン・スコットの『クリスチャン・ライフ』を高く評価した。

5) ジョン・ロック『随筆』2.22.6-20

これらの様々な能力つまり振舞い方によって強烈な喜びを覚える、つまり、幸せになるのだということ、魂は現時点では力を発揮する状態にない潜在的な能力が授けられていること、魂に無益な能力が授けられているとは信じる事が出来ないこと、これらの能力が超越的な喜びを覚えるときはいつでも、魂は幸福な状態にあること、そして最後に、来世の幸福はすべての人の幸福であるべきだと考えると、今語っている喜びには無限の多様性があることに誰も異論を差し挟まないこと、この満ち足りた喜びは魂が受け入れることが出来るすべての喜びから成り立っていることが分かります。

心について多様性ということを考えて見ると、以上述べて来た教理の確かさが裏付けられます。魂は常に同じ状態であることを嫌います。複数の能力が順番に互いに助け合い、関心のある対象の目新しさから付加的な喜びを受け入れます。

啓示も同様に、この考えを裏付け、来世の幸福について様々な見方を提供します。神の御座の記述では、五感と想像力を満足させるあらゆる対象が描写されています。まさにいろいろな場所で、おそらく悟性が受け止めることが出来るあらゆる幸福についてそれとなくほめかしています。「わたしたちは、今は鏡に映して見るようにおぼろげに見ている。しかしその時には、顔と顔とを合わせて、見るであろう。わたしの知るところは、今は一部分にすぎない。しかしその時には、わたしが完全に知られているように、完全に知るであろう」⁶⁾。敬虔の歓喜、神の愛、無数の天使と全うされた義人の霊に囲まれた救世主との交わりの喜びも同様に聖書の随所で描写されています⁷⁾。諸聖人たちが配置されており、私たちの幸福の大半があると考えられる階級つまり支配についての記述もあります。誰もが権力と優位を目指している現世にはそんなものはなく、おそらくそれ以外の部署では幸せになれないと考えて、自分に最もふさわしい部署を求めているのです。こういったことやその他の点については神の啓示で、天国における幸福の構成要素として示されています。それを見ると、私がかここで述べて来ましたように、喜びには多様性があること、そして、様々な能力を備えた魂にはそれぞれの満足感があることが分かります。

ユダヤ教の指導者ラビの中に、ケルビム（智天使）は知識が最もある天使であり、セラフィム（熾天使）は愛情が最もある天使だという人がいます⁸⁾。この識別がすべて架空のものであるかどうかは、ここでは検証しないことにします。しかし、善人の霊たちの間には、ある能力よりも別の能力を活用することに喜びを見出す人たちがいる可能性は十分あり得えます。これはおそらく深く根差している無垢で徳高い気質つまり性癖によるのだと思われず。

ここで、あらゆる能力でこうむる苦痛とそれぞれの能力に特有の悲惨さとの関連でこの考察を邪悪な人々に当てはめてみる事が可能です。だが、これについては読者の内省に委ねて、偉大なる創造主に感謝し、私たちを実に様々な方法で魂が喜びを覚える存在にしてくださっていることを喜ぶべきかを述べて締め括りたいと思います。非常に多様な通路

6) 『コリント人への第一の手紙』第13章第12節。

7) 『ヘブライ人への手紙』第12章第23節。

8) フランシス・ベーコン『学問の進歩』1.28参照。

によって、喜びや満足の種が私たちの思考に入り込むのが分かります。満足感を受け入れ、創造主の優しさを味わうために、靈魂は実にうまくこしらえられています。それゆえ、私たちは歓喜と驚嘆の念で自分たちの心の中を覗き見ることになり、私たちが数多くの祝福で包み込み、その祝福を享受する多くの能力を用意くださっている創造主への感謝は言葉では言い尽くすことは出来ません。

神が当然のように魂に来世の幸福を受け入れる資格を授けておられ、無上の幸福を受けることが可能な存在にしているのだといった主張ほど説得力のあるものはありません。神はその能力を無駄にお創りになってはおらず、それにふさわしい対象に尽力しないような力を付与なさってはおられません。心の内部の気持や気質によって、神が私たちの心を現世では遭遇することのない無限の喜びや満足感に適応させているの是一目瞭然です。したがって、私たちは常に私たちに対する神の慈悲深い目的と意図を裏切らないように努め、幸福と報いのための多くの適性を持つように創られている能力を苦痛と罰の媒介者にならないように注意を払わなくてはなりません。

第601号 1714年10月1日（金曜日）

【グローヴ】

人は生来善行をするように仕向けられている。(アウレリウス)¹⁾

つぎの随筆はこれまでに一度読者を楽しませてくれたことがある人の手になるものです。

狭量な気質というものは世間の多くの人々に見られますが、これが人間の純粋な特性だと考えてはなりません。なぜなら、善行を行うことで喜びを見出さず、幸福を直接の感覚によるのではなく、間接的に、つまり、他者からの反響によって受け入れる人たちがいるからです。こういった英雄的な人はごくわずかで、見た目にもはいつくばっている大衆がまるで別種の人たちであるかのように抜きんでた存在ですが、実際には両者に変わりはなく、同じ動機で心を動かされ、同じように不可欠な資質が授けられています。資質が研ぎ澄まされ、洗練され、教化されているか否かが違いとなります。水は冬も夏も液体であることは変わりませんが、冬には氷となりますが、夏にはゆるやかに流れ、川沿いの数多くの野原に元気を与えます。広がり易くなるのが心の特性のひとつです。優しい願いは顔中に広がりますし、非常に多くの人々に見られるように、もしその願いが他人のことを無視した自己愛だけに包まれている願いだとすれば、優しい気質は凍てついており、逆の支配的な資質の力によってその働きが抑えつけられているのだと考えます。そこで、この心にある寛大な性質を阻止する主要な点について挙げて見たいと思います。こうすることで、私たちはこのとても有益な本質が、どのような方法で足枷を取り除き、本来の自由な行使を回復できるかを判断することが可能になります。

1) マルクス・アウレリウス『自省録』9.42.4 アウレリウスは五賢帝の一人として有名。

第一の原因は体の不調です。道徳的悪の真因を知らない異教徒は、一般にそれを不変で自立しており、神でさえもその特性を変えることが出来ない物質の邪悪さのせいになりました。神が人間界にその特性を創り出したとき、神が見出だしたままに受け入れなくてはならないと考えた訳です。ほかの考え方もそうですが、この考えが真実と誤謬を作り出しています。物質が永遠であること、その物質に最初に魂が結びついたときから、それがその傾向を保持していること、心に与える悪い影響は神によって矯正されるといったことは、すべて大きな間違いであり、魂の能力や気質は大いに体質に依存するのは真理として明白なことです。生まれつき愚かな人とかならずがいます。とりわけ、大多数は狭量な心を持って生まれていると言えるかも知れません。こういった人々を構成する物質は鳥もちのように粘着質であり、一種の痙攣によって手と心を結び付けてしまいます。そのため、手も心ももっと多くの物をつかまない限りそれを開くのを嫌がります。これは嘆かわしい状態ですが、一つの利点が伴い、尽力を自粛するのが苦痛となります。生まれつき慈善心に富んだ人々は、自分がいつ支配されているか見極めがつかないために、本能を美德と勘違いしますが、これと反対の性格をした人々はいかなる行為においても優位を占めている動機を確信しているかも知れません。もし彼らが親切な行為と誰の目にも思いやりだと思わせるのに必要な気軽さと率直さとを比較できないと、その返礼に、彼らの真の価値は彼らが実行するときに克服する反感によって高まります。美德の力というものは、自然の重みに対抗して立ち上がるときはっきりします。義務を果たす覚悟をするたびに、彼らは良心に気持ちの捧げものをします。これは常にあまりにも心地よいものですから、これに追随する者はそれにふさわしい賞賛がない限り実行することは不可能です。おそらくこの邪悪な性質を完全に矯正することは、心身の遺伝的な不調の場合と同様に不可能でしょう。しかしながら、善行を辛抱強く続けることで大幅な矯正をすることが出来ます。どちらかと言えば、これは道徳的習性を身につける格好の方法であり、機械装置の力に対置するものとなります。ただ、いかなる口実があっても、ほんのわずかな中断があっても、神はその機会が再発し、瞬く間にそれまでの基盤を回復してしまうのを警戒しますので、善行をするという習慣を中断させないようにしなくてはなりません。心的な習慣の間には差違があり、それは体に基盤を置いているときと同様です。これらは元々より強制的で激しいものであり、異議を唱える間もなく私たちに取り入ります。前者は絶えず新鮮な補給によって補強しなくてはならず、補強がないと、元気をなくし消えてしまいます。このことはなぜ立派な習慣が一般に定着するには悪い習慣よりも時間を要し、すぐにとって代わられるかという理由を示唆しています。なぜなら、(たとえば酒浸りといった)墮落した習慣は体に変化をもたらすからです。習慣というものは獲得したときと同様に、勤勉と決意と警戒によって維持しなくてはなりません。

善意の活動を見合わせるもう一つの点は現世を愛することです。人々は間違った考えから、生活の豊かさが人生の幸福にとって不可欠な要素だと考えています。財産というものは配分すると減少し、分かち合う人が多ければ、個人の取り分はそれだけ少なくなります。その結果、人々は互いを悪意のこもった目つきで見、各人は他の人たちが自らの利益に走っ

ていると考えてしまいます。これは偏見に過ぎません。したがって、人々は富あるいは権力を巡って熱心に張り合うこととなります。ある人の成功は別の人にとっては失望となる訳です。同じ女性を巡って争う人たちと同様に、ライバルに対してごく普通の思いやりを示すことは稀です。それは人々が生来反目し喧嘩をする傾向にあるからではありません。他人よりも自分が好きであり、まずは自分の利益を確保するのは当然なことです。もし人々が幸福と考えるものが、光のように、満ち足りた非常に大きな善であれば、数多くの人々がその恩恵を被ること、あるいは人々の善意や優しさが溢れることが普遍的になることでしょう。「さ迷える旅人にチャンスを与えることはロウソクでロウソクに火をつけてあげることには過ぎない。それだけのことです」²⁾。しかし残念なことに、人間は一様に対象を選択し、その選択によって必然的に終身差が生じます。したがって、賢人のように物に対する真の価値判断をし、必要以上に世事を追い求めないようにしなくてはなりません。手の届かないものは単に無用なものとしてではなく、重荷となるものだと見なさなくてはなりません。他人を押しつけ、彼らを敵にまわさなくては手に入らないような物に心の安らぎを置いてはなりません。そんな物を手にすると、満足感よりもそれを維持するのに大きな苦勞を背負うこととなります。美德はより高尚な善であり、伝えることで成長します。世俗的な富とは全く異なり、多くの人が美德を身につければ、それだけ個人の蓄積は大きなものとなります。そして、その熱意を伝播させ、混ぜ合わせることによって、その光全体が明るさを増すだけでなく、一つ一つの光が強烈な炎を放って輝くこととなります。最後に、かりに富が喜びの媒介者であるとしても、最大の喜びは善行を行う喜びなのだということを肝に銘じて置くことです。感覚器官は狭い範囲内で作用するのであって、直ぐにもう十分だと言うのだということは考慮するに値します。それゆえ、どちらが幸せな人物と言えるでしょうか。関心事を自らの欲求を充足することだけに限っている人は、束の間の喜びに浸ることしか出来ません。ところが、他人、とりわけ、自分が手助けをした人たちと満足感を共有していると考えている人は、幸福の範囲を広くします。

私を取り上げる善意の最後の敵はあらゆる種類の不安です。うしろめたさとか不満、あるいは不運に苛立ったり、情熱にうろたえたり、無視されることで気難しくなったり、落胆で苛立ったりしている気持は、穏やかで清らかな心が必要とする善行に伴う喜びを得るためには、親切とか思いやりの必要性や妥当性が分かっているながら、それに耳を傾ける余裕がありません。最も惨めな存在はこの上なく妬み深い人です。他方、最も隠し立てをしない存在がこの上なく幸せな人です。もし完璧な愛と友情の席を求めているとしても、幸福が清新な小川のように心から心へと絶えず流れており、流れによって甘美で汚されない聖人の領域に達するまでその席は見つかりません。もし人に物を頼むときには、相手が精神的にくつろいでいるとき、つまり、上機嫌であるときを狙いなさい、という昔の助言があります³⁾。自らの高潔さを意識し、自分と自分の境遇に満足し、神および不死への望み

2) エンニウス。キケロは『義務について』で彼を引用した。

3) フランシス・ベーコン。第177号参照。

に全幅の信頼を置いている人たちは、周囲の人たちに溢れんばかりの善意を振りまきます。土を好む木々のように、彼らは思いやりを示し、大切な重荷を受けて、採集する人の手が届くようにたわみます。このように心が安らかでない場合は、心が生来の状態でないことの確実なしるしです。心を正しい状態に戻すと、直ちに善行に対する生得の性癖に気づきます。

第602号 1714年10月4日（月曜日）

これはあの人たちをヒヤシンスに変える。(ユヴェナリス)¹⁾

お見受けするところ、つぎの手紙はとても熱のこもった意見を述べる紳士からのものです。この方の意見はあまりにも本質をつきすぎているものですから、みなさんにお伝えしにくいと考えます。

拝啓

9月8日付けの貴紙において授けられたグレート・ブリテンにおける恋の詭弁家としての任務を遂行するために²⁾、一般的に男女双方を支配していることについて考えを述べて見たいと思います。とかく女性の心を捉えそうになる才を大きな好奇心を持って観察しますと、それが全く取るに足らないことであれば、有力者ほど魅力的な人物は他にはいないことが分かります。気取った帽子のかぶり方とか劇場のボックス席で大声を出すといったことで噂になる人物は、人気者となる可能性が大です。巡査を殴り倒すことでひと財産を作る若者を知っています。矛盾しているように思えるかも知れませんが、決闘者が二人とも生き残った決闘で女性の多くが亡くなったと言えるかも知れません。

3年ほど前の冬に、劇場でヤジを飛ばす仲間たちを率いる名高い道楽者に入れあげた若い婦人が目に留まりました³⁾。また、信頼できる筋からモーホックの皇帝がロンドンおよびウェストミンスター両市で暴れまくって3週間しないうちに裕福な未亡人と結婚したとの知らせを受けています⁴⁾。女性の気を引くためにしばしば窓が壊されましたが⁵⁾、密通者との呼称を手に入れ、信望の大部分を失っている人気者の一団ほど成功する人たちはいません。女性たちにはほかの女性から愛されている男性と知り合いになり、その人の魅力が何であるか知りたがる奇妙な好奇心が備わっています。噂が物を言う訳です。社交界に出入りしたいという野望を抱く女性は誰でも、その仲間入りになるチャンスを求めています。その結果、昔の格言を用いると、「評判が高まったなら、人は寝ていることができる」⁶⁾と

1) ユヴェナリス『諷刺』6.110

2) 第591号参照。

3) 第361号参照。

4) 第341号参照。

5) 第276号参照。

6) アパーソンはこの諺を1611年が起源とした。

いう訳です。

ジョージ1世がロンドン市に入城した日に⁷⁾、有力者の大きな利点がよく分かりました。そのとき、私はとても奇麗なご婦人方の一団の背後にあるバルコニー席に陣取っていました。彼女たちの中に、派手な紳士が一人いました。この紳士はまず自分の知らない上流婦人たちにお辞儀をしていました。それだけに止まらず、彼は厚かましくもいつもより立派な供回りを引き連れた青い靴下留めをつけた人物に向かって咳払いをし、咳払いを気づかせなくしている群衆の無礼な喚声を若干気遣っているようでした。実際、彼に向かって帽子をとる人がいました。ご婦人方がどなたですかと尋ねると、彼は彼女たちに向かって、本当はシティーの獵犬係の長官だったのですが⁸⁾、あの方は昨夜共にとても楽しく過ごした外務大臣だと答えました。

彼は貴族の人たちはほとんど知らなかったのですが、誰の名前を尋ねられても途方に暮れることはありませんでした。彼は参事会員たちの中に公爵や伯爵を、枢密顧問官たちの中にとても善良な人たちを、そして、主教や裁判官たちの中に愛想のよい年老いた道楽者の2、3人を見つけ出しました。

要するに、彼の話しから判断すると、彼は誰でも知っており、誰一人知らないということだったのです。同時に、彼があの日隣にいた愛人に半年間の求愛以上の口説きをしなかったとしたら、私の判断ミスだと思います。

オウィディウスは女性を口説く方法について巧みに言及しています。それをドライデン氏の翻訳で読者のみなさんにお伝えすることにします⁹⁾。

(11頁)

このようにして、最初に劇場での恋が進展した、
 そして劇場は今でも恋の舞台であり、
 戦車も駿馬の競争を遠ざけることはない、
 競技場も都合のよい場所だ。
 ここでは婚約について語る必要はないし、
 恋人たちはうなずきや気配が分からない。
 大胆にも女性は隣にあなたの席を用意し、
 できるだけ近くに並んで座る。
 喜んでいようとそうでなかろうと問題ではなく、
 体を寄せ合って座る、公の見世物ではそれが許されるのだ。
 そして話をする機会が訪れ、この戦車は、あの馬は、
 誰のものかと尋ねる。
 彼女がどちらに寄り掛かろうとも、
 あなたは彼女の虜になり、彼女の意のままに、

7) ジョージ1世は、9月30日月曜日にロンドンに入った。

8) 獵犬係はロンドン市長の配下で参事会員。

9) ドライデンの「恋するということ」の翻訳。

あなたの求愛が始まり、彼女を手に入れたいと考える。

(16頁)

ああ、いつになったら神の思し召しの日がやって来るのか、
いつになったら、最高で最も麗しい貴女が白馬に引かれて
凱旋するか、傍らに征服した奴隷たちを従えて。

奴隷たちはもはや逃げ出すことはできない。

ああ輝かしい人よ、驚くべき光景であることよ。

誰もが喜ぶ一日で、夜になっても終わることはない。

そんな日に、あなたと美人が並んで座っている光景を
見れば、実に壯観だ。

彼女が征服された王に山や川や秘密の泉の名前を
尋ねると、知っているすべてを答える。

そして必要とあれば、知らないことでも知ったかぶりで
答えるようだ、これがアシの茂ったユーフラテス川で、
あそこに淡緑色の毛を持った敏捷なチグリズ川が流れている。
それまで知らなかった新しい名前をでっちあげ、
これはアルメニアで、あれはカスピ海の海岸で、
これはメディア人で、あれはパルティアの若者だと、
おそらく真実ではないことを推測で喋るのだ。

敬具

第603号 1714年10月6日(水曜日)

【バイロム】

ああ、愚図愚図しているダフニスを思い焦がれている
腕に返しておくれ。(ウェルギリウス)¹⁾

つぎの詩の写しはある寄稿者からのものであり、ここには独創的な点が伺えますので、
読者に喜んでもらえるのは間違いないと思います。

I

詩の女神たちよ、私は若い頃楽しい日々を過ごしました、
どこへ行くにもフィービと一緒にだったのです。
無数の甘美な喜びを覚え、コリンのような優しい羊飼いが
祝福されないはずはないと確信していました。
ところが今では、彼女は行ってしまい、私は取り残されたのです。

1) ウェルギリウス『エクログエ(詩選)』8.68

突如として、なんと驚くべき変化が生じているのでしょう。万事順調に進んでいたとき、私は春だと思っていたのですが、なんと彼女のせいだったのです。

II

こういった人と一緒に、羊の世話をし、起き上がって遊ぶ、あるいは横たわって眠るとき、私はとても機嫌よく快活で陽気でした、私の心は一日中羽毛のように軽やかだったのです。ところが今では、とても不機嫌で気難しくなっており、これまでになかったほど妙に落ち着かなくなっています。私の愛しい人は行ってしまい、私の喜びはすべてかき消されてしまい、私の心は1ポンド以上の重みになっているのは確実です。

III

優しく流れ、小石の静かなざわめきに合わせて踊るのをつねとした泉は、可愛いキューピッドには分かるように、もしフィービと一緒にあれば、見るのも楽しく、耳にすると美しい調べとなるのです。ところが今では、彼女はいなく、私は泉のそばを歩き、泉がさらさら流れても、小言としか思えません。私が苦しんでいるのに、なぜお前はそれほど元気がいいのか、お前の泡立つ音を抑えて、私の訴えに耳を傾けてくれ。

IV

子羊たちがさかんに私の周りでじゃれ、フィービと私が子羊たちのように楽しくしていたとき、春と恋と美がすべて盛りのはときは、子羊たちの戯れはとても楽しく、とても幸せなひと時でした。ところが今では、子羊たちが戯れながら私のそばを通り掛かると、彼らに一握りの草を投げつけるのです。そして、私が悲しみに打ち沈んでいるのに、お前たちの陽気な姿を見ると腹が立つので、静かにしてくれと大声を出すのです。

V

犬が愛しい人と私に向かって尻尾を振りながらかけて来るのを見るととても嬉しいものでした。フィービも嬉しそうにして、犬を見ると、こちらへおいでと言って、頭を撫でたものです。ところが今では、犬がじゃれると、不機嫌な顔をしてシッと大声をだし、杖で叩くのです。さらに一撃を加えます、なぜなら、

フィービがないのだから、犬までも主人と同様に、
無気力にはいけないから。

VI

フィービと一緒に散歩していたとき、私はどんな光景が
目に入っていたのか。花はこの上なく奇麗で、
緑はこの上なく新鮮でした。木々も木陰も、畑も垣根も
あらゆる物がとても素敵でした。
ところが今では、彼女はいない、
すべてが以前のままここにあるが、何一つ楽しく見えません。
すべて彼女の目があれだけの素晴らしい眺めを作り出していた
魔法に過ぎなかったのです。

VII

森全体に私たち二人と共に甘い調べが流れていました、
ヒバリ、ムネアカヒワ、ツグミ、そしてナイチンゲールも、
頭上では風がさわさわと音をたて、傍らでは羊たちが
メーメーと鳴き、足元ではキリギリスがチーッチーッと
鳴いていました。ところが今では、彼女はいません、
今でも鳥たちがさえずっているが、森はひっそりとし、
美しい調べは消えてしまったのです。彼女の声調が調和して、
あらゆる物に心地よい響きを与えていたことが分かったのです。

VIII

バラよ、お前の優美な色はどうなっているのか、
スマイレの美しい青色はどこへ行ったのか。
花は甘美であるべきという義務を欺くのか、
草地もデージーも、どうして微笑まないのか。
ああライバルたちよ、お前たちが
彼女の気持を射止めんとし飾り立てたのだ、
彼女の目を喜ばすために飾り立て、
彼女の手でつみとられ、彼女の胸で死なんとし。

IX

いつになったらフィービは戻って来るのか。
それまでの間、柔らかな西風、涼しいそよ風の中にあっても、
私の心は燃えている。もし私に彼が歩む場所が分かれば、
翼に息を吹きかけひもを溶かすことができると思える。
時よ、早く進んで愛しい人をここへ連れて来ておくれ、
そして彼女がここに来たらゆっくりと休んでおくれ。
ああコリン、過去は遅延ばかりだ、お前は言うが、

一歩たりとも速度を速めはしない。

X

私の苦しみを聞いてくれ、私の不安を癒してくれ、
私の苦痛を和らげてくれるものもない。コリン、お前は癒され、
お前の情熱を取り払わねばならない。ところが、恋のない
生活ほど馬鹿げたものはないのだ。神よ、愛しい少女に
引き返すように命じてください。いまだかつて、これほど
悲しく哀れな羊飼いはいなかったのだから。ああ私はどうしたら
よいのか。絶望のあまり死ぬしかない。すべての若者たちよ、
これほど美しい人を愛する場合は愛し方に気を付けるのです。

第604号 1714年10月8日（金曜日）

【ティッケル】

運命づけられた結末を知ろうとしてはいけない。
あなたや私に対して、神々は耳に魔法の術策を
貸そうとはなさりません。（ホラティウス）¹⁾

将来の出来事を知りたいという願望は人間の最も強い気持のひとつです。実際、起こり得る出来事を予見する能力は、言葉で表すと、知恵と分別と言われるものです。ところが、人々は理性が提供する知識では満足せず、もっと手短かに将来を見通そうとします。魔法とか託宣とか予言とか幸運な時間とか様々な迷信などが台頭するのはこの強い動機のせいです。この原則は自己愛に根差していますので、誰もがまず自分の運命、人生行路、そしていつどんな死に方をするかといったことを気遣います。もし私たちが自由行為者だと考えますと、こういった質問の愚かさに気づきます。私たちが行なったり無視したりする行為はそのあとに来る別の行為をもたらし、人生の鎖はすべて繋がっているのです。苦痛や貧困あるいは汚名は邪悪で傲慢な行為がもたらす当然の所産なのです。ちょうどそれは、逆に善行には祝福がもたらされるのと同じことです。それゆえ、私たちの運命は不敬なくしては想定することは出来ません。大きな喜びは思いがけないことから生じ、苦痛は予見されることによって倍加します。こういったことおよびその他のことを考慮しますと、私たちに付与されている運命で満足し、すべてを私たちに合わせてくださり、無知にも知識にも寛大さを示しておられる神を崇めるべきです。

将来の出来事を迷信から探ることは程度の差はありますが、国々の教養や有益な知識の向上に比例して流布します。それゆえ、ラップランドには魔術的な呪文が残っていますし²⁾、スコットランドの奥地には予知能力がありますし³⁾、わが同国人の中にも数多くの妖

1) ホラティウス『頌詩』1.11.1-3

2) ジョン・シェファー『ラップランドの歴史』（1674）第11章参照。

3) 「予知能力」については、第505号、524号参照。

精を見る人たちもいます。アジアではこの軽信が目立ち、洗練された学問の大半も、魔除けやお守りや神秘的な数字などに対する知識から成り立っています⁴⁾。

私はグランド・カイロ⁵⁾に行ったとき、善良なイスラム教徒と知り合いになりました。彼は首相になったら私のために尽力してあげると約束したのです。秘術に精通している呪い師から首相になると告げられていた訳です。彼が繰り返し勧めるので、私は運命を教えてもらうためにこの不思議な賢者のところへ出掛けて行きました。彼はわずかな金で請け合ってくれましたが、準備の儀式が終わるまで部屋で待っているようにと言われました。そのとき、とても眠くなっていましたので、腰かけているソファの上で居眠りをして、つぎのような夢を見ました。その詳細については先日紙面で取り上げました。

私は果てしない平原にいたのでした。そこには慣習も言葉も異なる全世界の人たちが集まっているようでした。大勢の人たちが足早に歩いていました。そこで、私もその列に加わりたと思いました。直ぐに数名のとても華麗な人たちが目につきました。豪華なカフタンと華麗なターバンを身につけた人たちが人だかりの中をせかせかと動き回り、彼らのはねつけた人たちの体を踏みつけました⁶⁾。私が非常に驚いたことに、彼らが慌ただしく動いているのは人々を絞首台へとせかすためだと分かりました。一方で多くの美しい娘たちがとても陽気に歩いていました。飛び跳ねるあまり転ぶものもありましたし、化粧をし過ぎて鼻がなくなっている者もありました。ごてごてして目障りな連中が不幸な婦人たちを見て笑いこけていましたので、その人たちに目を向けました。彼らはそれぞれポケットに金や宝石を詰め込んでおり、それ以上詰め込めないとすると、脅えながら辺りを見回しているこの連中は私の目の前で飢えと不安のあまりやせ衰えました。こういった人間の不幸を見て、私はしばらく口がきけなくなりました。そして、私は心の重荷を取り除くために、ペンとインクを手にしてそれ以来観察者としての任務をこなすために出来るだけのことをしました。人々の一助となるように専念している間、同胞から不似合いな返礼を受けて驚きました。お粗末な著者は時折直接敵対してくるパンフレット作者に悩まされることはありませんでしたが、しばしば頑丈な土塁から狙い撃ちされ、待ち伏せされて急に起き上がりました。彼らの性格と能力は種々様々で、威厳の標章を付けた人もいれば、お仕着せを着ている人もいます。だが、私がとても驚いたのは、敵方に黒のガウンを身につけた人が2、3人いたことです⁷⁾。時折、それまで会ったことも聞いたこともない人が顔に怒りの表情を浮かべて近づいて来て、自分を愚弄したと非難するのは、私からすると大変厄介なことでした。ご婦人方の場合には別でした。多くは特別に注目されないということで私の敵になりました。一方で、私の風刺が自分たちに向けられているものと思って憤慨する人たちもいました。私の大きな慰めは6名の友人たちでした。この友人たちは私が紙面でたびたび触れて来たクラブの会員だったのです。私はしばしば睡眠中にサー・ロジャーを見て笑

4) これは中国への偏見だが、ル・コントは中国の学識および信仰の純粹さを称えている。

5) グランド・カイロについては、第1号参照。

6) カフタンは帯つきのかかとまでの長さのトルコや東洋の国々の人たちの衣類。

7) 黒のガウンはアン女王時代のもの。

いました。そして、あとで知ることになったのですが、彼が農家の娘と結婚するのを予見していましたが⁸⁾、ウィル・ハニコームの色恋沙汰は大きな楽しみでした。仲間が亡くなったとき私の心に生じた悲しみ、人々に対する気遣い、今でも眼前に飛び過ぎて行く数多くの不幸を考えると、私の好奇心を後悔してしまいます。そのとき、呪い師が部屋に入って来て、(手遅れだったのですが) 今から始めると言って私を起こしたのです。

〔要注意〕もっとふさわしい機会が訪れるまでは第二部を暴露するのは適切ではありませんので、過ぎ去った私の人生の一部のみをお伝えしました。

第605号 1714年10月11日 (月曜日)

【ティッケル】

彼らは野生を無くし、本性の一部を放棄して、
学芸のルールと陶冶に従う。(ウエルギリウス)¹⁾

つぎの手紙を拝見しますと、愛が主題になっていますので、これをその類いの思索のために確保しています学識ある詭弁家の手に委ねます²⁾。彼は翌朝この手紙に報告書を添付して返送して来ました。本日はその二つを読者にお伝えすることにしたいと思います。

前略

貴方は恋の詭弁家という資格で有用な人物を雇い入れていらっしゃいますので、わたしがこの数か月間困惑しています難局についてお力をお借りしたいと考えます。わたしには謙虚な信奉者が2名います。そのうちの1名には反感を抱くこともなく、もう1名も非常に優しい人物だと思えます。最初の1名は良識を備えているとの評判があり、貴方たち男性が高く評価しがちな人です。わたしの愛人は男性たちから伊達男と見なされていますが、ご婦人方には人気があります。もしわたしがみんなの言う資産家と結婚しますと、両親は喜び、わたしの運勢も好転することでしょう。だが、わたしは、密かに寡婦資産のない伊達男との幸せを期待しています。そこで、貴方にお尋ねしたいのですが、わたしは何一つ難点のない人かそれともわたしには取るに足らないと思えるのですが難点だらけの人のどちらを選択すればよいか教えていただきたいのです。わたしは恋の詭弁家の助言に従う積りです。おそらく詭弁家は結婚についてわたしの気持に反するような深刻な問題を押し付けはしないと思えます。

草々、ファニー・フィクル

追伸：申し上げておくのを忘れていましたが、お一方はとても物分りのよい方で、いつもわたしの気持を汲んでくださいます。もう一方はいやはや自分にはわたしと同じくらいに機知があるとお考えで、わたしのペットのだき犬をぞんざいに扱い、わたしが間違ってい

8) 第530号参照。

1) ウェルギリウス『農耕詩』2.51-52

2) 第591号、602号参照。

ると思うと、厚かましくもわたしに口答えします。30分ほど前に、面と向かって「つけ黒子は面砲にきびです」と断言しました。

私はどちらかと言えば娘さんよりもご両親の側に立つことを義務だと考えていますので、丁寧な質問者の方いくつか考慮すべき点を提案致します。そうすればご両親の監督下にある彼女のご両親に従うようになり、同時に、今は彼女に無頓着な彼にそのうちに真の愛情を抱くことが不可能ではないことを確信するかも知れません。昔からある家庭的な格言を用いますと、「まず結婚しなさい、愛情は後から湧くだろう」ということです。

彼女に結婚を申し出ている紳士に対して彼女がほのめかしていると思われる唯一の難点は親切心の欠如です。私には分かっていますが、彼女は進んで親切心で応じたいと考えているのです。まさにこの点から考えて見ると、彼女とこの恋人は彼らがどのように考えていようと、心の中では非常に仲の良い友だということが分かります。愛情が面白がって喜びを与えるのか苦痛を与えるのか決め難いものです。フィクセル嬢はこの良識のある人物を大変な愚か者にするのを密かに自慢していないかどうかご自分の胸に手を当てて考えてみてください。これまでも彼女は、自分の振舞いによって恋人が今にも首つり自殺をしようとしたときほど大きな喜びを覚えたことはないのでしょうか。また、彼女は恋人を渦巻く川岸まで追い込んだと考えるときほど大きな喜びを覚えるのではないのでしょうか。けれども、恋人が彼女の悪ふざけを見抜き、彼女がもたらすと同様に彼女に授けたいと考えている可能性があることを考えてみてください。オックスフォードを卒業したての私の知人である有望なギリシア人をまるで野蛮人であるかのように見なした美しいお転婆のことを覚えています。彼に目をつけて1週間して、彼女は彼のライバルの煙草入れからかぎタバコをひとつまみしました、そして明らかにライバルの小指に触ったのです。彼女は学問の公然の敵対者となり、彼に手紙を書くときも必ず意図的に彼の名前の綴りを間違えるのでした。若い学者は応分の仕返しをするために、そうだと分かるとすぐに男たらしに毒づき、彼女の付き合う才人や道楽者をからかいたくないと考えました。5か月間お互いに苛々しながら過ごしましたが、彼女はロンドンから80マイル離れたところで彼と密会しました。しかし、彼は彼女の悪ふざけを熟知していましたので、まったく逆の道を行きました。結果的に二人は顔を会わせ、口喧嘩をしました。そして数日後に結婚したのです。現在は愛情の役割がひとえに喜びを与えることになっていることに満足していますので、それまでの敵意が今では二人の浮かれ騒ぎの話の種となっている訳です。

女性達は結婚してしばらくは大勢の信奉者を引き付けることは念頭になく、一人の男性の心を掴むことで満足します。美しい盛りのご婦人方がこの点で大目に見られたいと思っていることは十分承知しています。しかし、歳月が生来の虚栄心をすり減らし、分別を教えますと、ご婦人方の愛着はそれにふさわしい対象を選びます。夫たちが実際に美しさを誇っている女性よりも盛りを過ぎた女性を好むのは、おそらくここにその理由があるのだと思われます。わが読者はこれと同じ見方を異性に当てはめることでしょう。

私は必ずしも二人で共通の利害を追求すること、そして、二人一致して子供の世話をす

ることの必要性を主張しませんが、夫婦はほかの誰よりも心から愛しており、憎しみも激しくなるのだということだけは言っておきたいと思います。相互の好意や義務はほかの状態のときより大きなものになると考えられますが、当然のこととして、寛大な心に強い愛情を生じさせます。一方、こういった好意を注ぐ人たちは、見返りがあって当然だと思っている人たちから冷たくされると、憤りに特別な怒りが生じます。

さらに、フィクル嬢は、しばしば結婚するまで分からなかった多くの欠点があるように、気づかなかった多くの美点も時にはあるのだということを考えてください。

両者相互の友情と慈悲心を生み出すためには、以上のことに習慣と絶え間ない会話を持っている大きな効果を付け加えることが出来るかも知れません。素敵な意見ですが、女性が男性の言い回しを用いたり、男性の話を語ったり、あるいは、男性のマナーを真似たりするときは、その女性が男性を愛しているのは確実なのだと友人が語っているのを聞いたことがあります。これは密かな喜びを与えてくれます。なぜなら、模倣は一種のお世辞であり³⁾、自己愛という強力な原理を強く裏付けるからです。互いを尊重し合っている夫婦は、互いの話の雰囲気や話し方が分かるだけでなく、思考や好みが同じものになるのは確実です。それどころか、やがて夫婦の顔立ちが似てくる人たちもいます。それゆえ、美しい寄稿者は薦められている紳士が2、3年もすると、自分と同じような顔になるのだということを考えてください。わが身可愛さのあまり他人の真似が出来ない伊達男にはこんなことは期待できません。もしその方がそれほどハンサムでないなら、それはあなたご自身に似ているためかどうかはあなたの判断にお任せします。

エドガー王の歴史に現在の目的に適した素晴らしい例があります⁴⁾。ここにその例を取り上げますので、美しい寄稿者はそれをご自分に当てはめて見てください。

イギリスの歴史においてとても有名なこの偉大な君主は、王国を巡幸中、ウィンチェスター近郊に住み、絶世の美女であるさる公爵の娘に恋をしました。彼はしつこくせまり、情熱もなみなならぬものでしたので、娘は胸中ではそのような忌まわしいお務めを嫌悪していたのですが、娘の母親は翌夜に王のベッドに連れて行くと約束しました。暗くなるとすぐに、母親は侍女のひとりであり、求愛されて運勢が高まるなんてこと望んでいない愛想のいいメイドを王の部屋に連れて行きました。このメイドはその機会をとともうまく利用しましたので、彼女が夜明け少し前に起きると申し上げたとき、王はどうしても彼女を手放すことが出来ませんでした。そのため、彼女は正体を明らかにする必要があると考えて、それを実に見事に行いました。王は彼女に惜しめない優しさを示し、その後ずっと彼女の面倒を見ました。年代記によると、王は美しいエルフリダと結婚するまで、彼女を連れ歩き、最初の国務大臣にし、誠意を尽くしたとのことです。

3) 第217号参照。

4) 10世紀の君主。サー・リチャード・ベーカー『年代記』(1684)参照。

第606号 1714年10月13日(水曜日)

【ティッケル】

彼女は退屈な時間を追ひ払うために歌い、
機織りの杼^ひを動かす。(ウエルギリウス)¹⁾

観察者様

わたしは二人の姪の面倒を見ていますが、彼女たちはいつも出歩いていますので、わたしには彼女たちの所在がつかめません。姪たちは洋服とお茶と訪問ですべての時間を使ってしまい、疲れ切って何もしないでベッドに就きます。わたしがあとからペティコートをかき集める始末です。彼女たちが唯一だらだらしていないのは、スペクテイター紙を読んでいる時です。貴紙は美德への関心に精力を注いでおられますので、わたしとしましては、長らく無視されている針仕事というものを奨励していただきたいと思います。今日、洋服や芝居や訪問などで浪費されている時間は、わたしの時代には領収書を書き記したり、家族のためにベッドや椅子や壁掛けを動かしたりするために使ったものです。わたしはどうかと言えば、この50年間針仕事に精を出しており、針を手放すことはありません。偉大な祖母の勤勉の賜物が掛かっている部屋で、二人の思い上がった気まぐれ者が午後はずっとお茶をちびちび飲んでいる様子を見るとわたしは悲しくなります。どうかお願いですから、賞賛に値する刺繍という手仕事について真剣にお考えください。貴方は過去の美德については十分に考えておられますので、引き続き現状の改善にご尽力をお願いします。

草々

尊敬すべき寄稿者のご指示通りに、この重要な話題をしっかりと考えました。そこで、以下に述べます主張によって、喪が開けるとすぐにでも²⁾、イングランドのすべての優秀なご婦人方が手仕事に励む心積もりをなさることを期待します。

生来控え目で、男性の愛情によって公の仕事を免除されている女性にとって、果物や花を手本にし、洋服に自然のあらゆる美を移植したり、部屋に新しい作品を備えたりすることに時間を費やすことは実に楽しい気晴らしであるに違いありません。自分がこしらえた木陰や木立の中を散策し、自分の針で殺害した勇士や難なく連れ込んだキューピッドを見渡すのはとても楽しいものです。

これこそが、婦人が天分を發揮する最もふさわしい方法だと思われまふ。そこで、女性の作家たちの中に、詩歌よりもタペストリーに打ち込んだ人があるのだと思わざるを得ません。女流牧歌詩人は田園風景に思いをぶっつけ、絶望している羊飼いを絹織物のヤナギの木の下に配置したり、モヘア織りの川で溺死させたりします³⁾。英雄詩の作家は見事に戦闘をあおり、金でたきつけたり、深紅で染めたりします。歌とか警句にしか才能がない

1) ウェルギリウス『農耕詩』1.293-4

2) アン女王が8月1日に亡くなったため。

3) ウィンチルシー伯爵夫人への言及。彼女は第4代ウィンチルシー伯爵夫人で詩人。

人たちでさえ、バッグに貴重な針を沢山いれており、靴下留めに数多くの装飾を施しています。

マナーに違反しないで、女性はすべて才能がなく、才能を発揮するにしても極めてごちないものだと言えるかも知れませんが、女性を安全な場所に置いておくためには仕事を求めなくてはなりません。

針仕事に精を出している女性を支持するもう一つの根拠は、針仕事をすることで、中傷や例のお茶の席とかその他あらゆる退屈な場に出席しなくて済むということにあります。女性が鳥や動物をこしらえている間に、男性は子供の父親になります。一方、青色がいいか赤色がいいかが大論争になっているホイッグとトーリーのことはめったに話題に上りません。もしソフロニアが心の中でフランスに味方している人々への激しい反感で目立つよりもタペストリーでプレニムの戦いを描いた方が大将に大きな栄誉を授けることとなります。

私を取り上げたい3点目の理由は、こういった素敵な技術が家族にもたらす利得があります。こういった生活は婦人の出費を抑えるだけでなく、同時に事実上の生活改善になるのは明白です。「聖書をまるごとタペストリーに織り込み、邸宅の3百ヤードに上る壁面を覆った後、かなりな高齢で死亡」と墓碑に刻まれた家政婦長は注目すべき存在です。

前提について考えましたので、グレート・ブリテンのすべての母親に以下の提案をさせて戴きます。

- I. 若くはない娘は最初の恋人が自分の刺繍を施した服を着ていない場合、その人の求婚を受け入れること。
- II. 元気の良い召使の前では、女性はせめて新しい胸衣つけて登場すること。
- III. 男の子のマントが完成しているだけでなく、産褥用の枕などが縫い上がるまでは実際には結婚しないこと。

以上のルールは、私の間違いでなければ、効果的に廃れた針仕事を回復させることになり、グレート・ブリテンの乙女たちは実に器用な指先を持つこととなります。

この点に関しては、ギリシアの婦人たちに注目すべき慣習があります。これはホメロスが記録に留めていますが、わが国の女性にとってもとても効果的だと考えます。古代においては、寡婦は亡くなった主人あるいは彼の最近親者の経帷子を織り上げるまでに再婚すると淫らだと見なされました。したがって、夫オデュッセウスが海で死亡したものと思っているペネロペは求婚されたとき、夫の父親ラエルテスの経帷子を織って時間稼ぎをしました。彼女の織物の話はとても有名ですが、詳細にわたってはあまり十分に知られていませんので、ホメロスが求婚者の一人に語らせている話を読者にお伝えしたいと思います。

誰彼といわず望みを抱かせ、どの男にも約束してよこすのだから。
たより音信をわざわざおく遣って来てな、真の意向は全然違っているものを。
 母上はつまりこうした奸わる計まで、心の底で企んでいたのだ。
 すなわち大きな機はたをお居間に組み立てさせて、織りつづけた。

こまかい糸で幅広の大きな布を、して我々に言うようには、
 (求婚なさる若殿がた、もうはやとうといオデュッセウスが^{みまか}歿^せったうえは、
 私との結婚にまあお急^せき立ちであらうけれど、も少しお待ちを、
 この布地をすっかり織り上げるまで。紡^{つむ}いだ糸がむだにならぬよう、
 それにラエルテスさまの^{きょうかたびら}経帷子^{るア}ですから。いつかは鋭い痛みを
 持つ呪わしい詩の運命にとらわれなさる、その時のため。
 この郷^{さと}じゅうの、アカイア女に非難されては困りますもの、
 身上^{しんじょう}もたんとお持ちでしたに、身を巻く帷子さえないのか、など。) ^{たか}
 こう言うもので、私らとても昂ぶる思いをようやく説得された。
 かようにして以後、母上^{はつちやう}は日中大きな織布を織りつつけてから、
 夜毎にそれを解きほぐしたのだ、^{あかり}灯りが傍にともる時分に。
 こうして三年は、狡^{みとせ}いたくみで人目をごまかし、アカイア人を
 納得させて来はしたが、四年目となり、季節が巡^{めぐ}って来たときに、
 そのときついに、侍女たちの一人が告^{しっか}げた、確と知っていた女が。
 それで私^{わし}らは母上^{はつちやう}が、立派な布を解きほぐしている、その現場を
 抑えたもので、^{いや}嫌々ながら母上も、^{よんどこ}抛^なろなく布をすっかり
 織り上げたのだ⁴⁾。

第607号 1714年10月15日(金曜日)

【ティッケル】

「万歳、パイアン」と唱えよ。してまた「万歳」と言い、
 ふたたび「パイアン」と唱えよ。
 狙っていた獲物が罠にかかったのだ。(オウイディウス)¹⁾

観察者殿

先の月曜日にファニー・フィクル夫人のケースに関する小生の報告書を掲載していただきましたが、その中で小生は、愛情は結婚してから生まれるのだと記しました。小生としては、読者のみなさんが、一般的に愛情が結婚に繋がるのですが、しばしば結婚が愛情を生み出すことになるのだという真実に満足いただいているものと期待します。

おそらく、申し分のない夫あるいは妻になるためには、卓越した性格の最後の仕上げをすることよりも多くの美德を必要とするでしょう。

判断力は絶対に不可欠だと思われまます。したがって、最良の夫は賢者として知られていることが分かります。分別のある人物のお手本を描写したホメロスは、それをより完璧なものにするために、きちんと貞節と真実でもってペネロペに報いた彼を褒め称えました。

4) 『オデュッセイアー』2.91-110 呉 茂一訳『オデュッセイアー』(岩波文庫、1971年)を借用。

1) オウイディウス『恋の技法』2.1-2 沓掛良彦訳『恋愛指南』(岩波文庫、2008年)を借用。

彼は彼女のために女神の抱擁を拒絶したのです。異教の著者たちの言葉を借りると、「彼にとっては不死よりも老婦人のほうが大切だった」²⁾のです。

家庭的な人物にとってつぎに必要な特質は美徳です。なぜなら、美徳は当然貞節と相互の尊敬を生み出すからです。したがって、ブルトゥスとポルキアは当時の誰よりも美徳と愛情で際立ったのです。

結婚生活において3番目に必要な要素は気立ての良さです。これがないと必ずいろいろな局面で嫌気がさしてきます。寛大な心にこの好ましい資質が加わりますと、周りの人たち全員の賞賛と敬意を引き寄せます。そこで、運も武勇も人間性ほど顕著でなかったカエサルは、当時の習慣を無視して、最初で最愛の妻の葬儀で追悼演説をしてローマの民衆の心をつかんだのです³⁾。

気立ての良さは不変で一定しており、とりわけ親交関係において維持すべき心の平静さが伴っていないと不十分です。他者に寛大になるには、まず自身が心安らかでなくてはなりません。ソクラテスにはクサンティッペ、アウレリウスにはファスティナがいたのですが、哲学の力によって完全に心を落ち着け感情を抑制した両者は善良な夫として称えられた人物の実例となります。もし夫婦が最初の1年間互いの欠点を我慢する習慣がつきさえすれば、障害はかなり克服されます。異教徒たちの間では結婚式でこの種の優しさと愛想の良さが大いに奨励されます。結婚の女神ユノに犠牲を捧げる人たちは、いつも犠牲の他の部分から胆嚢を取り出して祭壇の脇に投げ捨てたのです⁴⁾。

本日の手紙はプロット博士の『スタッフォードシャーの自然史』⁵⁾から一文を引いて締め括りたいと思います。これは本日の貴紙の埋め草になるだけでなく、小生は年取った記録係をこの地に抱えていますので、後日の紙面の材料にもなります。

サー・フィリップ・ド・サマヴィルは顕著な働きによって、ウィッチノーヴル、シレスコット、リドウェア、ネザートン、カウリー、スタッフォード、そしてランカスター伯爵の荘園を所有した。当該サー・フィリップはウィッチノーヴルの広間にベーコンをつるして保管しており、四旬節以外は1年を通して、結婚して1年と1日が経過したすべての人たちに以下の方法で与えるために用意したのです。

該当者本人がベーコンを求めるときはいつでも、管理人かウィッチノーヴルの門衛のところへ赴き、以下のように申し述べることにする。

管理人さまあるいは門衛さま、分かっていたきたいのですが、私はウィッチノーヴル卿の広間につるされているベーコンを一切れいただくためにやって来ました、と。

その後で、管理人あるいは門衛は日にちを指定し、約束の日に隣人2名を連れて来させること。その間に、当該管理人はウィッチノーヴルの自由土地保有者2人を伴い、ロバート・ナイトリーの所有するラドロウ荘園に行き、前述のナイトリーあるいは彼の管理人に

2) これはベーコンの「結婚と独身生活」に由来する。

3) プルタルコス『カエサル伝』5.2

4) 『モラリア』141F

5) ロバート・プロット『スタッフォードシャー自然史』(1686)。

指定日の日の出時に、ベーコンや穀物をスタッフォード郡から自費で運び出すために、馬車、つまり、馬と鞍、袋と突き棒をつけてウィッチノーヴルにやって来るようにさせること。それから、当該管理人は、当該自由土地所有者と一緒に、ベーコンへの恩義を果たさせるために、当該荘園の小作人を全員指定日にウィッチノーヴルに呼び出すこと。指定日には、日の出から正午までベーコンに恩義のある人たち全員がウィッチノーヴル荘園の入口に揃い、ベーコンを持って来る人を待ち構えること。そして当人がやって来ると、彼とその仲間たち、およびそこにいるすべての人たちに届けられることになる。彼らはウィッチノーヴルの領主あるいは執事が待ち構えている広間の入口まで、ラッパやテイバー（小太鼓）を吹き鳴らしながら吟遊楽人のようにして当該要求者を連れて行くことになる。

彼はベーコンの要求者に隣人2名を連れて来ているかと尋ねる。要求者は全員控えていますと返事をしなくてはならない。すると、執事は、当該要求者は結婚しているか、結婚して1年と1日過ぎているか、自由民か悪漢かどうか、隣人2名に誓わせる。そして隣人2名が前述の3点をクリアーしていると誓うと、ベーコンをフックから降ろし、広間の入口に運ばれることになる。そして小麦14ポンド、ライ麦28ポンドが付け加えられる。ベーコンの要求者は跪き、ベーコンと穀物の上に置いてある聖書に右手を添え、誓うことになる。

サー・フィリップ・ド・サマヴィル、ウィッチノーヴル領主、ベーコンの保有者であり寄贈者であられる方、私エイは妻ビーと結婚し、妻を預かり1年と1日心変わりしたことはございません。旅も狩りもお金にも眠っているときも目覚めているときも、いつだって心変わりはしたことがございません。もし妻ビーが孤独なら私も孤独なのです。どんな状態であっても、世間の女性たちの前に妻を連れ出します。良くて悪くても、神様と聖人様たち、そしてすべての人たちのご加護がございます。

そして、隣人たちが彼の誓いはすべて真実ですと誓います。そしてこの隣人たちによって彼が自由民だと判明されると、彼には小麦14ポンドとチーズが渡されることになる。もし悪漢だと分かると、チーズはなく、ライ麦14ポンドだけが渡されることになる。つぎに、ラドロウ領主ナイトリーが呼び出され、前述の品物を運ぶことになり、当該の穀物とベーコンを馬に載せることになる。彼に渡されることになっていたベーコンを馬に載せて、馬がある場合にはチーズも載せて行くことになる。馬がない場合は、ウィッチノーヴル領主は彼に馬と鞍を用意させ、荘園内を抜けて行くことになる。彼らはトランペットやテイバーを吹き鳴らしながら吟遊楽人のようにして、獲得した穀物とベーコンを持ってウィッチノーヴル荘園を出て行くのである。ウィッチノーヴルの自由民たち全員が彼のウィッチノーヴル荘園の通過を手伝うことになり、それが済むと彼以外の人たちは全員引き返すのである。スタッフォード郡の外は、ウィッチノーヴル領主のお金で旅をすることになる。

第608号 1714年10月18日（月曜日）

【ティッケル】

恋人たちの偽りの誓いを笑いなさい。（オウイディウス）¹⁾

観察者殿

約束通り、時あるごとにサー・フィリップ・ド・サマヴィルとその末裔にベーコン一切れを要求した人たちのリストをお届けします。これは「ウィッチノーヴル・ホールとそこに保管されていたベーコンの記録」というタイトルの古文書に保存されています。

この記録の冒頭部分には、すでに前回紹介しましたように、法令というか慣例が記載されています。これに総則の注釈として2つの内規が添えられています。この内規の骨子は、「個々の違いを考慮して」妻は夫と同じ誓いをする事、判事たちは証人に面会し、尋問し、また、反対尋問すること、となっています。この後で、つぎのように記録が始まります。

サー・ジョン・フォールスタフ勲爵士とデイル・モードの息子オーブリ・ド・フォールスタフとその妻がベーコンを最初に要求した人物だった。彼は自分の利益のために偽証しようとして父親の友人2人に賄賂を贈り、ベーコンを手に入れた。しかし、彼と妻は早速ベーコンの下ごしらえの仕方を巡って口論になり、判事たちの命令でベーコンは没収され再び広間につるされた。

スティーヴン・フレクルの妻アリソンは、夫を連れて行き、夫の状態も振舞いも問題ないと明言し、夫が自分に対しても同じように証言してくれるのは間違いありませんと付け加えた。すると、スティーヴンが首を横に振りましたので、彼女は突然彼に襲い掛かり、彼の横面を張った。

フィリップ・ド・ウェイヴァーランドは、聖書に手を置き、「私が孤独で妻が孤独なら」という一節になったとき、密かな良心の痛みを感じ、素知らぬ顔をした。

廷臣でありとても上品なりチャード・ド・ラプレスは、結婚後口数が少なかったのですが、この件に関して自分のことをはっきり説明するように求められた。彼は恋人であったときの丁寧な振舞いについてとうとうと述べた。そして、結婚前の1年と1日、妻に不親切だったことはまったくなく、今でそうであることを願っていると断言した。却下。

郷士ジョスリン・ジョリー。彼と妻は一般に蜜月と呼ばれる最初の1か月間はこの上なく愛し合っていたとの申し分のない証言をする。これを考慮して、彼にはベーコンの薄切りが授けられた。

記録によると、この後ウィッチノーヴル・ホールに要求者が現れるまでには長年が経過したとのことです。まるで、この領地の全員がユダヤ教徒に改宗し、ベーコンにまったく愛着がなくなったと思えるほどでした。

記録にあるつぎの二人は、もし証人の一人が日曜日に要求者と食事中に、教会で郷士夫人の下手に座っていた要求者の細君がまるで夫はナイト爵位を授けられて当然だと思っているかのようにある言葉を口にし、それに彼がかつとなってフン！と応じていたと証言していなかったらうまく切り抜けていたのです。これを考慮した判事たちは前述の振舞いは暗に妻の弁明の余地のない野心と夫の怒りを意味していると断言したのです。

1) オウイディウス『恋の技法』1.633

ある妻が夫のことを喋るときに「神よ、夫を許したまえ！」と言ったことは失格条件として十分だと記録されています。

同様に、夫人がかつて夫に、「従うのは私の義務です」と言い、それに対して夫が「ああ愛しい人よ、君は決して間違っていない」と応じたと隣人の一人が証言して、ある夫婦の要求が却下されたのは注目すべきです。

夫人のペット犬に対する溺愛、年取ったお手伝いさんを追い出して別の人を雇うこと、妻が居酒屋の請求書を、夫が仕立屋の請求書を破ること、パン皮の柔らかい部分について口論すること、夕食を台無しにすること、夜遅く帰宅することなどは、何十人もの要求者が却下されることになった項目であり、その名前が前述の記録に留められています。

その他の個々の人物については列挙しないで、ジャーヴェス・ポーチャーという人物について、もしこれまで妻が卵をゆですぎたときに叱っていなければ、ベーコンを獲得できていたかも知れないということは述べて置きたいと思います。そして、これまで石炭の火を不法占有してき、(夫はそのことを心の中では動揺しているのだが)、彼女は善意で自分の責任として火かき棒を管理しているのだというドロシー・ドゥーリトルへの証言は世間に流布しています。

最初の百年に上首尾に終わった二組の夫婦が目につきます。最初の一組は船長とその妻ですが、結婚した当日から申し立ての日まで互いに顔を合わすことはなかったのです。二組目は近隣の正直者たちであり、夫は率直な良識と穏やかな気質の持ち主で、妻は口が利きませんでした。

第609号 1714年10月20日(水曜日)

寄せ集めの書物。(ユヴェナリス)¹⁾

前略

小生はしばらく前から貴紙に登場したいと考えて来ました。そこで貴殿が思索に時間を費やさないのは当然だと思われる日に忍び込むことにしました²⁾。先日、田舎の紳士と散策していますとき、町が大勢の神学博士たちで占められていることを知って、彼はさかんに驚きを口にしていました。それに対して、頸垂帯スカーフをつけている人が全員そうだと思っているなら大きな間違いだよと小生は彼に言いました³⁾。なぜなら、大学で最初の学位を取得した若い牧師は通例顔見世をするためだけに町にやって来て、人前に出て行くのにガウンとカソックだけで、最も重要な頸垂帯がないと、下宿の女主人やチャイルド・コーヒーハウスの給仕から博士と呼んでもらう資格がないと考えるからです。町の洒落者の遊び人たちの間で着用されているこのアクセサリーは虚栄とか気取りの印と見なされていることが分かっていますので、小生としましては、公正にも貴紙のあちこちで暴露なさっている

1) ユヴェナリス『諷刺』1.86

2) この日に、ジョージ1世はウェストミンスター寺院で戴冠式を行った。

3) 頸垂帯は貴族の牧師の印だった。

突飛な行為の一例としてこれを取り上げていただくと嬉しく思います。田舎や大学のこれに毒されていない大勢の牧師がこの尊敬すべきお洒落がうまく暴露されるのを見ると満足するのは間違いありません。後援者が小生に敬意を表して家に招待してくれたとき、(正直言って小生は聖職者ですが)、彼は小生のことを友人と言ってくださいました。彼が頸垂帯のことを隷属と依存の印である従僕のレースや肩飾りのようなものと見なしているのかどうかは分かりませんが、彼は親切にもその着用は小生の判断に委ねてくださいました。小生の学位では頸垂帯をつける資格がありませんので、それがなくても満足しています。おそらくこういった聖職者の10人に1人は、頸垂帯をつけることになる貴族と何の関係もないのですが、一定数の牧師を抱える貴族の特権は誰もが認めています。一般に一人はいる家庭以外の牧師を生み出す権利は、執事の特典以外の何物でもありません。執事が主人よりも長生きすれば、全員正式の装身具を身につけた自分の生み出した牧師を同時に50人抱えることになるでしょう。もっとも、その場合、最初に宝冠が授けられて以来その家で伝えられて来た祈りは捧げられることはないでしょうが。

草々

前略

貴殿には人情として当然の反感について、想像力の力に関する意見を少し添えた哲学的な論考を書いていただきたいと思います⁴⁾。小生は最初に2本足で歩く卵型の磁気のカップや夜鳴き鶯のように歌うブリキ製のポットについて提供出来ます。近所にナイフを見ると金切り声をあげるとても可愛いペチャクチャ喋る仔牛の肩肉がいます。人情として当然の反感に関しては、蒸し焼きにしたウサギ以外には征服されたことがない将官と羊の胸肉の力を借りて夫を牛耳っている細君を知っています。この件での小生自身に関わる話は、とりわけまったくの真実だと断定しますと、面白くないと思われるかも知れません。小生は長い間ある婦人に言い寄って来て、今は手に入れてとても幸せです。ネコの手を借りなければ彼女を獲得するのは非常に困難だったのです。貴殿にお分かりいただかなくてはなりません、小生の最も危険な好敵手はネコが大嫌いでしたので、この無害な生き物を見ると必ず卒倒したのです。小生の味方であるお手伝いのルーシー夫人は好敵手よりも小生と小生の資力に大きな敬意を払っており、好敵手がやって来ると分かるといつでも、主人のガウンにネコの尻尾をピンで留めたのです。これが非常に効果的でしたので、彼が部屋に入って来るたびに、彼は魅力的な恋人というよりはサーモン夫人の蠅人形館の人物のように見えました⁵⁾。要するに、彼は彼女と一緒にいることに耐えられなくなったのです。彼女はそのことに気づき、(彼と同様に彼女にもその理由が分からなかったのですが)、リンカーズ・インの礼拝堂⁶⁾で会いたいと言って来ました。小生はその申し入れを喜んで受け入れ、(とりわけ嬉しかったのは)彼女が小生の戦略を誉めてくれたことでした。

4) 第538号参照。

5) 第28号参照。

6) ハットンによると、この礼拝堂は1626年に完成したとのこと。

草々，フープにて⁷⁾，トム・ニンブルより

前略

グレート・ブリテンの乙女たちは貴方が大洪水以前のヒルパやニルパにしか似合わないような針仕事という単調な仕事を与えてくださったことに大変感謝しています⁸⁾。実際、貴方の刺繍や絹織物の木陰とモヘア織りの小川のある木立のお話には感動します⁹⁾。貴方にお知らせしたいのですが、わたしはイングランド最高の主婦が戦闘を縫い上げ、貴方の門弟たちよりも早く少年や少女を刺繍するまでに、数多くの恋人を殺したいと思っています。わたしは貴方と同じように小鳥や動物が大好きですが、実際に出来上がったときの様子を想像することで満足しています。貴方は金色の皮張りの家具をどう思われますか。部屋には素敵で壁掛けがあり、おまけに、わが国はヨーロッパでこの種の仕事が結構行われている唯一の国です。貴方の古臭い教えを気に掛けずに、これからセント・ポール教会に行つてついでと壁掛け一組を予約する積りです。わたしはわが国の製品を激励する決意を固めている次第です。

草々，クレオラ

7) これはコーヒーハウスの名前と思われる。

8) 第584号参照。

9) 第606号参照。